

自閉症支援来月提言

自閉症の人に優しい街づくりを目指し、金沢市の市民団体「自閉症の未来協議会」は二十九日、

政策提言のための「市民熟議2012(金沢)」の第二回合合を、同市広坂のしいのき迎賓館で開いた。早期診断をめぐる現状や課題を議論。本人や家族のケア、支援態勢の充実を求める声が多く上がった。意見は集約し、八月下旬にも山野之義市長に提言する。

市民団体と金大チーム「熟議」

ケア充実など 金沢市長に



自閉症の早期診断をめぐる現状と課題を議論する参加者＝金沢市広坂で

関心のある市民ら三千人が参加した。子どもの発達相談に携わる金沢市の担当者二人

が、対応する親子の状況などを説明。「診断を受けていない子も多く、また同じ診断名でも特徴は幅広い」とした上で「親によって受け止め方が違うので、診断は親の気持ちや時期を考えると大切では」と話した。

参加者たちは五グループに分かれて議論。「就学時に保育所から子どもの特性を個別に引き継ぐ仕組みがあれば」「成長段階にかかわらず、幼児期から一貫してかわる相談員が必要」などの意見が出た。

協議会は、対人関係が苦手だったり社会性が乏しいなどの特徴から、家庭や学校での対応が課題となっている自閉症について話し合い、行政などに働き掛ける場として設けられた。

(奥野斐)

金沢大の研究チームと共催。今回は脳画像を使った最新技術による早期診断の是非を話し合った前回に続く総括の場で、協議会のメンバーや当事者、家族、教育関係者、